

集合住宅のトイレ問題 デフリンピックの取組



小林正樹 (公明党)

在宅避難をされる方の43・8%が避難所や公園のトイレを利用すると言われてる。この値を加味すると、避難所のトイレは理論上、不足していることになる。(ア)集合住宅では発災時のトイレマニユアルは整備されているか。(イ)マニユアル整備、簡易トイレの備蓄を呼びかけるべき。(ウ)住宅管理者やマンション組合を対象とした講座を開催しないか。(エ)市営住宅のマニユアル整備状況は。(オ)避難所の段ボールベットの備蓄について、東京都の地域防災計画修正案に基づいて、協定先からの供給分も含めた配備目標

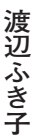
を防災計画に反映するべきではないか。



部長 (ア)把握はしていない。(イ)機に依りて啓発する。(ウ)前向きに検討する。(エ)入居者への周知方法を検討する。(オ)今後の修正において、総合的に勘案したい。

■その他、「デフリンピック競技大会東京2025」をきっかけとした、機運醸成や障がいのある無にかかわらない共生社会構築に向けた取組、シティブロモーションに関して、小金井市観光まちおこし協会事務所の設置場所の検討や、市のPRを兼ねたガバメント・クラウドファンディングの更なる取組について質問しました。

新庁舎・福祉会館建設を 地域振興の起爆剤に



渡辺ふみ子 (公明党)

①実施設計が終了し施工者選考の準備に入る。(ア)サウンディング調査の結果から見えるものは。(イ)地域振興に寄与し、市内の商店会や商業者の期待に応える地元事業者の参入や、建設工事期間中の商店街の積極的利用を推進すべき。

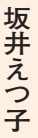
②障害者支援施設整備事業について、入所施設整備計画の検討状況は。(ウ)視覚障害者や外国人にも有効な音声アプリ「ユニボイス」の導入を。



部長 (ア)「本事業への関心は大いにある」が3年前の6社から2社に減。「条件による」が8社だった。(イ)地域貢献の提案も踏まえ施工者選考委員会で決定する。

③障害者施策の拡充について(ア)放課後等デイサービス等、発達障害のある子ども増加に伴い、施設の拡充が必要。(イ)障害者支援施設整備事業について、入所施設整備計画の検討状況は。(ウ)視覚障害者や外国人にも有効な音声アプリ「ユニボイス」の導入を。

28度越えの学校教室は3 教室。断熱改修の実施を



坂井えつ子 (緑・つながる)

学校環境衛生管理マニユアルでは児童・生徒などに生理的、心理的に負担をかける最も望ましい温度は、夏は25〜28度程度としてい

る。今夏の測定結果では三小西校舎3階と緑小2階で29度、四小3階で28・2度だった。昨年夏も別の3教室で28度を超えていた。健康的で快適な学習環境の維持向上が必要だ。(ア)マニユアルでは、各階1以上の教室で温度測定するとしてい



部長 (ア)学校薬剤師は階の異なる2教室を測定している。普段は教師が温度調整に努めている。マニユアルに沿えるよう検討したい。(イ)文科省の手引きでは「大規模改修時に断熱工事を必ず実施していただきたい」としている。検討していきたい。(ウ)ない。一小改修時に建物の断熱化を図る。(エ)個別の改修時期は来年度にかけ計画を見直す中で定めていく。(オ)研究していきたい。

る。今夏の測定結果では三小西校舎3階と緑小2階で29度、四小3階で28・2度だった。昨年夏も別の3教室で28度を超えていた。健康的で快適な学習環境の維持向上が必要だ。(ア)マニユアルでは、各階1以上の教室で温度測定するとしてい

身体・心・歯と口腔 健康づくり条例制定を



渡辺大三 (子どもの権利)

①「身体」「心」「歯」と口腔の健康づくりを総合的に推進する条例の制定を目指して検討を始めるか。

からの提案を共有したい。②投票率の向上に向け、埼玉県熊谷市、東京都世田谷区、千葉県千葉市、長野県小諸市のように、親子連れ投票キャンペーン(蛍光ペン、シール、下敷きをも



部長 歯と口腔に関する条例の制定は全国で23自治体。都内では、千代田区、豊島区、渋谷区、杉並区、日野市が制定済み。多摩市が制定に向けて準備。現時点では、健康増進法に基づき健康増進計画を策定しており、まずは本計画を着実に推進することで市民の健康増進を図ることができると考えており、条例を制定する考えは持ち合わせていない。健康づくり審議会に三師会も入っており、議員

検討を進めていただきたい。事務局長 投票率アップのみならず、子どもの将来の投票につながる取組と認識している。どのような課題があり、どのような運用がより良いか、情報収集、調査研究に努めたい。

地震発生時の避難所運営 小学校のプール授業



遠藤百合子 (自民党・信頼)

①首都直下地震は2022年5月の被害想定報告書によると、多摩東部で30年以内マグニチュード7・3、震度6弱が70%の確率で発生すると言われている。(ア)自治会における防災会の現状と課題は。(イ)避難所の運営をどうしていくか。(ウ)避難所運営協議会の現状と今後は。また、必要な負担を予算化しないか。(エ)夜間や休日発災した際、避難所運営協議会等に鍵を預けないか。



部長 (ア)把握はしていない。(イ)機に依りて啓発する。(ウ)前向きに検討する。(エ)入居者への周知方法を検討する。(オ)今後の修正において、総合的に勘案したい。

②本町小学校夏休み前みの市営プールを使用してのプール授業について、各小学校の来年度以降の考え方は。市長 教育委員会で調整し、丁寧にしつかりと積み上げていく必要がある。

住民投票「否決」を受けて、 市民参加を問う



高木章成 (子どもの権利)

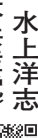
①白井市長は議員時代から基本的に現行憲法を擁護する立場で国民主権や民主主義の理念は共有できると考えていた。市長になり変わったと疑念を持った。(ア)新庁舎及び(仮称)新福祉会館の建設に関する住民投票条例案は市長の反対意見のとおりに否決されたが受け止めは。(イ)直接請求や住民投票は民主主義を否定するものなのか。(ウ)市民参加条例の理念をどのように市政に反映するか。(エ)義務的市民投票規定の請求要件を13%から10%に引き下げないか。(オ)市民参加は基本的に応援するか。



市長 (ア)現設計案と見直し案を問う住民投票は適当ではないことがご理解いただけだ。(イ)条例の内容が市の政策意思に反する。民主主義を否定するという意見は付していない。(ウ)主権が国民にあるの言うまでもない。市政においても同様。(エ)改正を仮に検討する際には重く受け止める。(オ)市民の意見は個別に判断する。

②今年度予算の執行状況の所見は。(イ)来年度予算編成に白井カラーをどのように打ち出していくのか。市長 (ア)本市の魅力を再構築する予算。現時点の評価は差し控える。(イ)色というものがいいのちよっと悩むところ。

訪問介護事業所の 実態調査と支援を求める



水上洋志 (日本共産党)

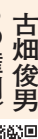
訪問介護事業所への支援を求める。報酬改定で訪問介護は切下げとなった。全国的に介護事業所の倒産が増え、介護基盤の崩壊が指摘されている。(ア)訪問介護の状況についてどう考えるのか。(イ)報酬改定の影響などの実態調査を行わないか。(ウ)保健福祉総合計画のアンケートで「赤字」と答えた事業所が45%に上り、影響があることは明らかである。一時金の支給などの支援を検討すべきである。(エ)国で更なる負担増が検討されている。負担増をやめさせ、報酬の見直し等の意見を上げてほしい。



部長 (ア)訪問介護の利用者は増加傾向にある。ヘルパー確保に苦慮していると聞く。(イ)影響については注視していく。(ウ)市独自の支援は難しい。(エ)機会をとらえて意見を上げる。

■その他、街路樹や駅前植栽の樹冠を拡大し、日射を抑制するなど、樹冠被覆率の向上、とりわけ、今後整備される、東小金井駅北口付近と梶野通り、東大通り、北大通りと地蔵通りの間の植栽と武蔵小金井駅北口、高架下側道についての整備を求め、また、豪雨対策について、周知・啓発と雨水利用促進について質問しました。

優先整備2路線等の 整備の検証について



古畑俊男 (子どもの権利)

①2路線検証作業について、東京都が既に示している3つの道路構造案の違いにより検証の評価が変わってくる。評価等全面開示には至っていないが、開示されている3つの道路構造の検証作業に照らし合わせていくという解釈でよろしいか。(ウ)令和6年第1回当該検証作業は、市内11の未施行都道の次期優先整備路線の候補検討と、現優先整備2路線の必要性の検証を目的とするようになっていく。(ア)検証の手法はどのようなものになるか。建設環境委員会や都市計画審議会では、アンケート実施や中立性の担保について懸念する意見があるが大丈夫か。



部長 (ア)今まで検証項目や手続、スケジュール等に関する様々な意見を頂いている。反映できるものは反映して進めていく。(イ)そのとおりである。(ウ)両作業とも1月から3月にかけて判断する予定である。

■その他、他市における、道路構造等に係る東京都との行政連絡会設置の概要や経緯について質問しました。

部長 (ア)自主防災組織は、合計31組織まで拡大しており、地域の防災力が高まっている。自治会の加入率等

市長 (ア)本市の魅力を再構築する予算。現時点の評価は差し控える。(イ)色というものがいいのちよっと悩むところ。

部長 (ア)訪問介護の利用者は増加傾向にある。ヘルパー確保に苦慮していると聞く。(イ)影響については注視していく。(ウ)市独自の支援は難しい。(エ)機会をとらえて意見を上げる。

部長 (ア)今まで検証項目や手続、スケジュール等に関する様々な意見を頂いている。反映できるものは反映して進めていく。(イ)そのとおりである。(ウ)両作業とも1月から3月にかけて判断する予定である。